

平成20年度第2次新まちづくり計画施策進行調書

政策目標	4	安全・安心で、人と環境にやさしい街					
重点課題	2	地球環境問題への対応と循環型社会の構築					
達成目標の状況							
施策番号	項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
1	「さっぽろ地球環境憲章」の策定	-	素案の策定	策定			策定 (20年度)
1	(世界冬の都市)市長会議参加都市数	29都市 (17年度)	22都市	-	30都市	-	30都市
1	エコライフ行動レポートの集計に基づき試算されるCO ₂ 排出削減量	-	約4,544t	推進	推進	推進	4万t
1	学校におけるエコライフ行動レポートの提出枚数(累計)	-	27,794枚	27万枚	40万5千枚	54万枚	54万枚
1	環境配慮型事業者への支援プラン策定	-	-	策定			策定 (20年度)
1	(落葉から環境保全と地域交流事業)参加団体数(南区 累計)	2団体	5団体	8団体	11団体	15団体	15団体
1	計画期間中の環境活動への参加者数(西区 19年度からの累計)	24,322人	14,293人	27,003人	32,713人	38,373人	36,500人 (H19~22累計)
1	堆肥の散布量(累計)	-	305.4t	600t	900t	1,200t	1,200t
1	オオワシ、シマフクロウの繁殖数	-	-	-	-	3羽	3羽
1	オオワシ、シマフクロウの放鳥数	-	-	-	-	3羽	3羽
1	(円山動物園リニューアル)基本計画の策定	-	素案策定	策定			策定 (19年度)
2	建築物環境配慮制度に基づく総合環境性能評価の提出件数(累計)	-	20件	100件	200件	300件	300件
2	札幌駅前通熱供給導管ピット整備	事業着手	構築工(杭)	土工	構築工(本体)	復旧工	完成
2	(風力発電)事業主体となる事業者の選定	-	選定				選定 (19年度)
2	西区民・保健センターにおける二酸化炭素排出削減量	-	前システム比 47t削減	前システム比 約50t削減	同左	同左	システム導入前 に比べ50t削減
2	学校への新エネルギー設備導入件数(累計)	7件	8件	9件	10件		10件
2	(次世代エネルギーパーク)構想を受けた整備計画の策定	-	構想策定	計画策定			策定 (20年度)
2	1,000kW規模の太陽光発電所の設置	-	-	-	-	1施設	1施設
2	新エネルギー設備等の新規融資額	-	6百万円	10億円	同左	同左	10億円
2	指針に基づく省エネ・新エネ導入検討施設数(累計)	-	1カ所	2カ所	3カ所	4カ所	4カ所
3	(札幌市一般廃棄物処理基本)計画の改定	-	改定				改定 (19年度)
3	(家庭用)廃食油回収拠点数	43カ所	71カ所	120カ所	160カ所	200カ所	200カ所
3	(家庭用)廃食油回収量	1,200 /月	2,500 /月	4,000 /月	5,000 /月	7,000 /月	7,000 /月
3	「さっぽろスリムネット」によるごみ減量実践活動への参加者数	10,000人	10,000人	12,500人	15,000人	17,500人	20,000人
3	(定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業)参加事業者の生ごみ分別量	1.6t/日	1.9t/日	2.2t/日	2.5t/日	2.8t/日	3.2t/日
3	リユース広場(リユースプラザ)で市民に提供した家具等の個数	965個 (白石)	1,023個 (白石)	1,081個 (白石)	1,139個	1,197個	1,200個
3	(中規模事業所)ごみ減量・処理報告書の提出義務付け対象拡大	-	一部実施	実施	指導開始	指導継続	実施 (19年度)
3	(紙、プラスチック類、草木類廃棄物)排出状況調査	-	-	検討	実施		実施 (20年度)
3	(焼却灰のセメント原料への再利用)事業実現性評価	-	-	-	-	実施	実施

平成20年度第2次新まちづくり計画施策進行調書

政策目標	4	安全・安心で、人と環境にやさしい街				
重点課題	2	地球環境問題への対応と循環型社会の構築				
主 な 取 組 内 容						
19年度(実績)			20年度(予定)			
施策1 環境行動を実践する人と街づくり						
<p>「環境首都・札幌」宣言市民会議を設置し、素案を作成 グリーンランドの首都ヌーク市で開かれた第13回世界冬の都市市長会議に会長都市として参加し、地球温暖化対策等について協議 さっぽろエコ市民運動、エコドライブコンテスト、環境情報誌「えこぼろ」発行等の各種啓発事業を実施 環境教育プログラム策定、小学生向け環境副教材改定等事業者の環境配慮活動を評価する環境活動評価基準案を検討し、アンケート調査実施 落葉から堆肥への利用促進を図る落葉配布・堆肥化公園(5ヶ所)、落葉堆肥化の講習会等実施(5回) 環境活動団体への助成金(1地区)、キャンドルナイトin琴似二十四軒(779名)、こども環境活動発表会(200名)等 家畜排泄物を原料とする堆肥を農家に散布(5戸、305.4t) 円山動物園で、現在飼育する猛禽類の保護小屋を設置(2棟)、エゾシカ・オオカミ舎完成等</p>			<p>「環境首都・札幌」宣言市民式典を開催し、本市の環境首都を目指す姿勢を世界に向け発信 カナダで開催される2008年実務者会議に参加し、環境問題小委員会を開催し環境問題の調査等を実施 さっぽろエコ市民運動、エコドライブコンテスト、環境情報誌「えこぼろ」発行等の各種啓発事業を実施 環境教育校外学習用バス貸出(110台)、環境教育リーダーの追加養成等 環境配慮型事業者評価・登録制度の構築、システム開発 落葉配布・堆肥化公園(11箇所)、講習会等(5回) 19年度事業の継続及び先取的な取組を調査する新環境フロンティア事業を実施 堆肥の散布(5戸、300t)、新技術現地試験圃場の設置 円山動物園で繁殖小屋(4棟)、リハビリゲージ等の建設(大小1棟)、園内ピオトープエリア造成</p>			
施策2 省エネルギー、新エネルギーの普及促進						
<p>建築物環境配慮制度の導入、運用開始(届出数20件) 都市再生プロジェクトエネルギーネットワーク構築事業費補助として、札幌駅前熱供給導管ピット等の整備に対する補助実施 風力発電事業者を公募、決定。事業者による事前調査等の実施。 下水熱有効利用モデル事業として、システム完成。下水熱の暖房利用実証試験を開始。 太陽光発電等設置モデル事業として、前田中央小学校へ太陽光発電設置(5kW) 札幌市次世代エネルギーパーク事業の構想策定(検討委員会4回実施) メガワットソーラー共同利用モデル検討事業の基礎調査実施(検討委員会実施) 札幌・エネルギーecoプロジェクト発足、新支援制度(融資・補助)構築 公共施設における省エネ・新エネ導入体系化推進事業として、公共施設への省エネ・新エネ導入指針策定</p>			<p>建築物環境配慮制度の運用、普及啓発等 都市再生プロジェクトエネルギーネットワーク構築事業費補助として、札幌駅前熱供給導管ピット等の整備に対する補助実施 風力発電事業実施に向け、事業者や関連機関との調整を進める 下水熱有効利用モデル事業として、引き続き実証試験を継続、効果・課題等の検証を実施 太陽光発電等設置モデル事業として、北郷小学校へ太陽光発電設置(10kW) 札幌市次世代エネルギーパーク事業の基本計画策定 メガワットソーラー共同利用モデル事業化に向けての詳細検討実施 札幌・エネルギーecoプロジェクトとして、4月より新規融資・補助の募集開始 公共施設における省エネ・新エネ導入体系化推進事業として、制度拡充、エネルギー技術導入検証等</p>			
施策3 みんなで進めるごみ減量、リサイクル						
<p>「スリムシティさっぽろ計画」素案を公表し、3カ月間のパブリックコメントや223回開催した市民意見交換会などで延べ8,367人の参加を得て、3,848人から意見が寄せられ、この意見を踏まえ計画を変更・追加し、平成20年3月に計画を策定した。 「さっぽろスリムネット」の会員数は、226名、18団体となり、平成19年度事業への参加者数は延べ9,889名に上った。また、ごみ収集車7台などへのBDF使用を開始するなど、各プロジェクトにおいて、ごみ減量事業を展開した。 4回の協議会を実施し、延べ73名の市民・事業者の参加を得て、地域合意の基に「定山渓地域バイオマスタウン構想」を策定した。定山渓地区の生ごみ597tが堆肥化され、これを同地区の7軒の農家が活用して農作物を生産した。生産した農作物は、同地区で開催する「エコ収穫祭(来場者811名)」で市民に提供され、7つのホテル等において食材として活用された。</p>			<p>「スリムシティさっぽろ計画」を印刷・配布し、市民へ周知するとともに、この計画で掲げたごみ減量・リサイクル施策の実施に向けて、「雑がみ」のモデル実験事業や生ごみリサイクルパートナーシップモデル事業、地区リサイクルセンター設置、共同住宅のごみステーション対策強化などを行っていく。 「さっぽろスリムネット」会員である市民・事業者の意見に基づき、各プロジェクトにおいて、ごみ減量事業を展開する。 廃食油回収拠点をさらに拡大するとともに、廃食油リサイクルについて普及啓発を行っていく。 生ごみ堆肥の活用拡大に向けて、農家や農業協同組合、堆肥化事業者などと調査・検証を行う。 厚別清掃工場跡地に新たに「リユースプラザ」を整備する。 中規模事業所に対するごみ分別・リサイクル指導を推進するため、データベースを構築するとともに、指導マニュアルを作成する。</p>			
主 な 施 設 、 サ ー ビ ス の 整 備 水 準						
施設(サービス)名	18年度末(現状)	19年度末(実績)	20年度末(予定)	21年度末(予定)	22年度末(予定)	22年度末(目標)

平成20年度第2次新まちづくり計画施策進行調書

政策目標	4	安全・安心で、人と環境にやさしい街	
重点課題	2	地球環境問題への対応と循環型社会の構築	
評価(成果)		課題	
施策1 環境行動を実践する人と街づくり			
<p>・20年6月に「環境首都・札幌」宣言市民式典を開催し、本市の環境首都を目指す姿勢を世界に向け発信した。冬の都市市長会での取組は本市の環境問題への積極姿勢のPRとなり、市民の環境意識の醸成につながっている。</p> <p>・環境情報誌「えこぼろ」発行や、実践ガイドブックの作成・情報発信スペース新設(西区)など、積極的に情報提供を行うとともに、さっぽろエコ市民運動等の普及啓発事業により、「気づき」から「行動」へ移行させる効果をあげている。</p> <p>・環境教育の具体的な手引きとなる環境教育プログラムを策定し、落葉から環境保全と地域交流事業では、教育効果の他、ゴミの減量、処理費用の削減にもつながった。円山動物園では、猛禽類の保護小屋を設置し、エゾシカ・オオカミ舎完成により北海道の自然を体感しながら、効果的な環境教育が可能となった。</p>		<p>・「環境首都・札幌」宣言をさらに広く周知・フォローアップし、環境行動の定着につなげていく必要がある。また、冬の都市市長会では活動のPRを通じて市民の関心をさらに高める必要がある。</p> <p>・学校や市民・事業者との連携を強化するとともに、環境配慮型事業者支援制度の構築等、先駆的な仕組みづくりを行うことで、より多くの市民・事業者に環境行動を定着させ、さらに自主的、継続的な活動へと発展させる必要がある。</p> <p>・環境教育プログラム等の周知・活用を進めるとともに、施策の進捗状況を評価・検証する必要がある。</p> <p>・円山動物園では、繁殖・放鳥事業に必要な施設建設に向けての財源確保や、新施設を活用した環境教育・レクリエーションプログラムの検討が必要である。</p>	
施策2 省エネルギー、新エネルギーの普及促進			
<p>・計画事業は予定どおり進捗している。</p> <p>・平成19年度は、「札幌市建築物環境配慮制度」、「札幌市エネルギーeco資金融資・補助制度」、「公共施設への省エネ・新エネ導入指針」を策定・制度化した。</p> <p>・公共施設等への省エネルギー・新エネルギー設備の率先導入についても、概ね計画通りに進んでいる。</p> <p>・「メガワットソーラー共同利用モデル検討事業」、「札幌市次世代エネルギーパーク事業」、平成19年度に基礎調査等を終えた。</p> <p>・「風力発電推進事業」については、H19年度に風力発電事業の実施事業者を公募・選定した。</p>		<p>・省エネルギー、新エネルギー機器は未だ価格が高いことから、普及促進のためには支援制度の拡充や、誘導施策の実施が必要である。</p> <p>・公共施設への率先導入についても、国の補助等が縮減傾向にあり、財源の確保が課題となっている。このため、費用対効果などを精査の上、効率的な事業の実施を図る他、民間活力の導入についても検討を進める。</p> <p>・風力発電の事業実施に向けては、北電株の募集に応募し、事業が採択されなければならない。</p>	
施策3 みんなで進めるごみ減量、リサイクル			
<p>・計画の策定にあたっては、素案を4カ月という長い期間をかけて市民に提示し、パブリックコメントは通常より長い3カ月間実施し、市民意見交換会を各地域で行い、できるだけ多くの市民が意見を述べられる機会を設け、多数の意見が寄せられた。寄せられた意見を十分に踏まえて変更・追加を行い、計画を策定した。</p> <p>・平成17年3月に14名でスタートした「さっぽろスリムネット」の会員数は、平成19年度末には、200名以上、団体も18団体に達し、平成19年度事業への参加者数については10,000名近くに上っているなど、ごみ減量実践者は確実に増えている。</p> <p>・定山溪地区生ごみ堆肥化推進事業に対する市民・事業者の理解を深めるため、定山溪地区において開催された3つのイベントに参加し、多くの市民・事業者にPRを図ることができた。</p>		<p>・新たに策定した「スリムシティさっぽろ計画」で掲げた施策を円滑に実施するために、施策の企画・調整、適切な進行管理、市民との情報共有を確実に実施しなければならない。</p> <p>・ごみ減量実践者の拡大やごみ減量実践活動の充実を図るため、「さっぽろスリムネット」の組織体制の整備に向けた支援が必要である。</p> <p>・生ごみ堆肥活用拡大に向けて、堆肥の活用側の意見を取り入れながら堆肥づくりに取り組む必要があるとともに、生産される農作物の活用と事業への理解を深めるため、市民への普及啓発が必要である。</p> <p>・事業ごみのさらなる減量・リサイクルを推進するため、中規模事業所を新たに指導対象とし、適切な指導範囲の設定や指導体制の構築が必要である。</p>	
今後の重点取組			
<p>・本市では、市民生活と関わりの深い民生(家庭・業務)及び運輸部門からのCO₂排出量が全排出量の大部分を占めていることから、市民一人一人に対し環境行動の定着を図ることが非常に重要である。今後、「さっぽろエコ市民運動」を柱に、学校、企業、市民団体等と連携をとりながら、より積極的に各種事業を展開し、CO₂排出量の削減につなげていく。</p> <p>・市民、事業者向けの省エネルギー・新エネルギー機器の導入支援を拡充する。</p> <p>・また、新たに策定した「スリムシティさっぽろ計画」で掲げた施策を円滑に実施するために、施策の企画・調整、適切な進行管理、市民との情報共有を確実に実施する。</p>			

平成20年度第2次新まちづくり計画施策進行調書

政策目標	4	安全・安心で、人と環境にやさしい街
重点課題	2	地球環境問題への対応と循環型社会の構築

成果指標等の動向

<p>項目1 市民の省エネ・省資源行動指標(省エネ・省資源を实践したことによるCO2削減量)(単位:t)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> <th>属性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>0</td> <td>现状値</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>0</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>100,000</td> <td>目標値</td> </tr> </tbody> </table>	年度	値	属性	H18	0	现状値	H19	0	実績	H20	0		H21	0		H22	100,000	目標値	<p>項目2 市内における新エネルギー・省エネルギー機器導入によるCO2削減量(単位:t)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> <th>属性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>13,000</td> <td>现状値</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>21,000</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>55,000</td> <td>目標値</td> </tr> </tbody> </table>	年度	値	属性	H18	13,000	现状値	H19	21,000	実績	H20	0		H21	0		H22	55,000	目標値
年度	値	属性																																			
H18	0	现状値																																			
H19	0	実績																																			
H20	0																																				
H21	0																																				
H22	100,000	目標値																																			
年度	値	属性																																			
H18	13,000	现状値																																			
H19	21,000	実績																																			
H20	0																																				
H21	0																																				
H22	55,000	目標値																																			
<p>項目3 廃棄ごみ量(平成16年度対比)(単位:%減量)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> <th>属性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>6</td> <td>现状値</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>11.4</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>20</td> <td>目標値</td> </tr> </tbody> </table>	年度	値	属性	H18	6	现状値	H19	11.4	実績	H20	0		H21	0		H22	20	目標値	<p>項目4 環境に配慮している事業者数(単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>値</th> <th>属性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H18</td> <td>776</td> <td>现状値</td> </tr> <tr> <td>H19</td> <td>891</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>H20</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>2,000</td> <td>目標値</td> </tr> </tbody> </table>	年度	値	属性	H18	776	现状値	H19	891	実績	H20	0		H21	0		H22	2,000	目標値
年度	値	属性																																			
H18	6	现状値																																			
H19	11.4	実績																																			
H20	0																																				
H21	0																																				
H22	20	目標値																																			
年度	値	属性																																			
H18	776	现状値																																			
H19	891	実績																																			
H20	0																																				
H21	0																																				
H22	2,000	目標値																																			
<p>項目5</p>	<p>項目6</p>																																				

成果指標等から見た重点課題の評価

実績値が判明していない市民の省エネ・省資源行動指標(省エネ・省資源を实践したことによるCO₂削減量)を除き、他の3指標では目標値に向け数値を伸ばしており、重点課題の達成に向け概ね順調に推移していると思われる。
 なお、環境に配慮している事業者数は、H18、H19はEMS構築数のみを計上しているが、環境配慮型事業者支援制度が構築されるH20以降は、新制度の登録を受けた事業者数を含め計上されることとなり、さらなる増加が見込まれる。